

大学生の自己教育力に関する研究 (10)

レジリエンス尺度の開発

○森 敏昭
(広島大学)

石田 潤
(神戸商科大学)

清水益治
(大阪樟蔭女子大学)

富永美穂子(非会員)
(広島大学)

Chok C. Hiew (非会員)
(Univ. of New Brunswick)

Resilience scale, Students' Self-Education Ability

目的 大学生の自己教育力と生きる力(レジリエンス)の関係を調べるにあたり、レジリエンス尺度を作成する。

方法 **調査対象** 西日本にある7つの大学の学生計789名(男248名,女541名)を調査対象とした。

調査内容 自己教育力尺度として、Hiewら(2000)を参考に、以下の36項目を作成した。そして、各項目に対して、「現在の自分」にどの程度当てはまると思うかを、「1.まったくあてはまらない-2.あまりあてはまらない-3.どちらともいえない-4.ややあてはまる-5.よくあてはまる」の5段階で評定を求めた(*は反転項目)。

1. 何か目標を持って生きていたいと思う。/2. 他人の手助けを積極的にするほうである。/3. 一つの課題に粘り強く取り組むことができる。/4. 自分にかなり自信がある。/5. いやなことであっても次の日には何とかかなりそうな気がする。/6. 他人に対して親切なほうである。/7. どちらかといえば目標が高いほうがやる気が出てくる。/8. 自分の嫌な面から目をそらしてしまう(*)。/9. 自分自身を成長させたいと思う。/10. 本音で話ができる人がいる。/11. 物事をやり遂げることに喜びを感じる。/12. 物事がうまくいかない時、つい自分のせいにしてしまう(*)。/13. どんなことでも、たいていなんとなかなりそうな気がする。/14. いざというときに頼りにできる人がいる。/15. 何事にも意欲的に取り組むことができる。/16. 相手が優れているところは素直に認める。/17. 困難なことでも前向きに取り組むことができる。/18. 自分の問題や気持ちを打ち明けられる人がいる。/19. 物事は自分の力で変えることができると思う。/20. 自分には、あまり誇れるところがない(*)。/21. 物事は最後にはうまくいくと思っている。/22. 私のことを親身になって考えてくれる人がいる。/23. 初対面の人でも平気で話しかけることができる。/24. ときどき自分はいやなことやってみよう。/25. いつか私にしかできないようなことをやってみよう。/26. 私の考えや気持ちをわかってくれる人がいる。/27. 一つの課題に集中して取り組む

ことができる。/28. 自分には、よいところがたくさんあると思う。/29. 自分の将来の見通しは明るいと思う。/30. 人間は互いに相手の気持ちをわかり合えると思う。/31. 物事を自分の力でやり遂げることができる。/32. たいていの人が持っている能力は自分にもある。/33. 未来のことを考えるのが好きである。/34. 私の生き方を誰もわかってくれはしないと思う(*)。/35. 自分で決めた事なら最後までやり通すことができる。/36. 自分自身のことが好きである。

手続き このレジリエンス尺度と、自己教育力尺度や他の尺度を組み合わせた冊子を作成し、平成12年12月から13年1月にかけて、各大学の教室で実施した。なお分析にはSTATISTICAを用いた。

結果と考察 先ず反転項目の得点を逆にして、各項目の得点の平均値を算出し、値が4.5以上の項目の得点の分布を調べた。その結果、1, 9, 11の3項目は平均値が4.5以上であり、5(最大値)の回答が60%以上であった。そこでこれらの項目を除外して、残りの項目で主成分分析を行った。スクリープロット(Cattell, 1966)の方法を用いたところ、固有値の数が4で値が変化が大きく変わったので、4因子を設定した(図1参照)。

次に、4因子を指定して因子分析を行った。バリマックス回転を行ったところ、8, 19, 25, 33の4項目だけが第4因子までに因子負荷量が.4を越えなかった。そのため、この4項目を除き、再び4因子を指定して因子分析を行った。その結果が表1である。第1因子は、自分を肯定的にとらえる項目を多く含んでいるため、I AMの因子と命名した。第2因子は、自分を助けてくれる人がいるという対人的安定性をとらえる項目を多く含んでいるため、I HAVEの因子と命名した。第3因子は、自分の能力に対する信頼感をとらえる項目を多く含んでいるので、I CANの因子と命名した。第4因子は、自分の将来に対する見通しをとらえる項目を多く含んでいるので、I WILL(またはI DO)の因子と命名した。

以下では、この4つの因子と自己教育力の関係を調べる。

表1. 4因子の構造

	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子	
	I AM	I HAVE	I CAN	I WILL/I DO	
4. 自分にかなり自信がある	0.681	0.052	0.327	0.171	
20. 自分には、あまり誇れるところがない	0.681	0.165	0.178	0.082	
28. 自分には、よいところがたくさんあると思う	0.630	0.249	0.270	0.207	
36. 自分自身のことが好きである	0.624	0.283	0.133	0.272	
29. 自分の将来の見通しは明るいと思う	0.578	0.176	0.244	0.247	
12. 物事がうまくいかない時、つい自分のせいにしてしまう	0.563	-0.097	-0.324	-0.127	
24. ときどき自分は全くだめだと思う	0.548	0.033	0.045	-0.086	
32. たいていの人が持っている能力は自分にもある	0.537	0.086	0.212	0.118	
26. 私の考えや気持ちをわかってくれる人がいる	0.052	0.846	0.153	0.093	
18. 自分の問題や気持ちを打ち明けられる人がいる	0.036	0.833	0.168	0.066	
10. 本音で話ができる人がいる	0.092	0.780	0.119	0.077	
22. 私のことを親身になって考えてくれる人がいる	0.087	0.762	0.069	0.137	
14. いざというときに頼りにできる人がいる	0.094	0.726	0.118	0.133	
34. 私の生き方を誰もわかってくれはしないと思う	0.220	0.456	-0.056	-0.123	
30. 人間は互いに相手の気持ちをわかり合えると思う	0.111	0.443	0.152	0.242	
3. 一つの課題に粘り強く取り組むことができる	0.040	0.057	0.798	-0.011	
27. 一つの課題に集中して取り組むことができる	0.073	0.210	0.751	-0.092	
35. 自分で決めた事なら最後までやり通すことができる	0.175	0.049	0.692	0.106	
7. どちらかといえば目標が高いほうがやる気が出てくる	0.162	0.052	0.558	0.191	
31. 物事を自分の力でやり遂げることができる	0.372	0.156	0.556	0.185	
17. 困難なことでも前向きに取り組むことができる	0.241	0.126	0.544	0.397	
15. 何事にも意欲的に取り組むことができる	0.091	0.195	0.519	0.367	
5. いやなことであっても次の日には何とかかなりそうな気がする	0.358	0.017	-0.089	0.603	
6. 他人に対して親切なほうである	0.010	0.153	0.195	0.599	
13. どんなことでも、たいていなんとなかなりそうな気がする	0.391	0.048	-0.024	0.579	
2. 他人の手助けを積極的にするほうである	-0.125	0.207	0.347	0.505	
16. 相手が優れているところは素直に認める	-0.133	0.238	0.139	0.491	
21. 初対面の人でも平気で話しかけることができる	0.167	0.116	0.105	0.452	
23. 物事は最後にはうまくいくと思っている	0.427	0.091	0.009	0.442	
	説明率	3.813	4.029	3.618	2.717
	寄与率	0.134	0.139	0.125	0.094

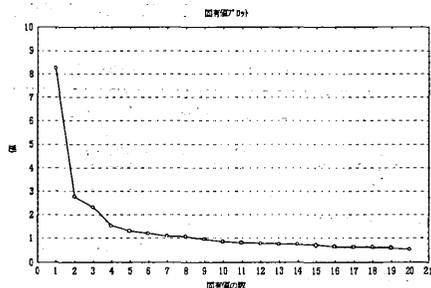


図1 固有値のプロット

文献 Hiew, C.C., Mori, T., Shimizu, M., Tominaga, M. 2000 Measurement of resilience development: preliminary results with a state-trait resilience inventory. 学習開発研究, 1, 111-117.

(MORI Toshiaki, ISHIDA Megumu, SHIMIZU Masuharu, TOMINAGA Mihoko, HIEW, Chok C.)

一連の研究は文部省科学研究費(基盤研究(B)-(1),課題番号:11410032)の補助を受けた。